

やすらぎだより

9
月
号

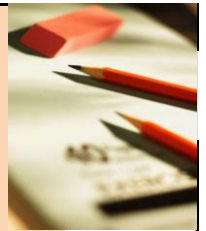
陽気で緑にあふれた生活 それやすらぎ園です

施設長コラムバックナンバーホームページ掲載しています。

コラム第183号

「三度目の正直」

業務執行理事 植田 誠



コロナ禍の中、‘とにかく施設は大変’が浸透している今日、それに伴う苦心話も良いがこんな時だからこそあえて日常の些事を書くこととする。

先日、運転免許証更新手続きの為、平日午前近所の警察署を訪れた。十数回の経験値から「橿原運転免許センター」の混雑を予見し、例え即日交付が叶わぬともあえて住所地警察署を選択したが、同じ思慮の者が多いのか若しくはたまたまなのか、窓口は既に人であふれていた。

程なく名前が呼ばれ申請手続きを進めると、次は鬼門の視力検査。過去幾度となくこの視力検査での苦戦を経験したベテラン老眼の私は、手ぐすねを引いて待っていたが、

「植田さん、大型時は眼鏡必須ですね。お持ちですか？」

車中に置き忘れたことに気付いた私は得意の快足を活かし、慌てて駐車場との往復ののち息を整え検査に臨んだ。

「これは？次にこれは？ではこれは？」

繰り返すうちに確信の返答ができなくなって行く私の心をもてあそぶかのように、矢継ぎ早の問いが来る。正答が導き出せず勘に頼る私を見透かしているのか、若手警察官は首を捻り出し。

「う～ん、厳しいですね」

再度の検査を懇願するも、冷静な警察官の返答は変わらない。そこで私は、知っているかのような専門家らしい言葉を思わず発する。

「ご存じですか？視力というのは心の揺れや息の乱れも影響するものです。もう一遍お願いします」

背後の長椅子で待機する方々の急ぎ立てる視線に押されたのか、奥の老練な警察官も加わる中、三度目の検査が行われた。

「ハイ、OKでしょう！」

アクリル板を挟んだ三人は、安堵の表情を交わした。

訳の分からぬ一言も、専門家っぽい一言も、たまには良いと納得する。但し忘れてはならぬ、たまにはであることを。



社会福祉法人やすらぎ会 実施事業

- 特別養護老人ホーム やすらぎ園
- 在宅サービス事業所
- 居宅介護支援事業所
- 訪問介護事業
- 訪問入浴介護事業
- 短期入所生活介護事業
- 在宅介護支援センター
- 天理市東部地域包括支援センター
- ケアハウス やすらぎ
- 介護予防関連事業
- グループホーム むつみあい
- 住まいの生活支援事業
- グループホームなごみ筒井